

松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No. 44

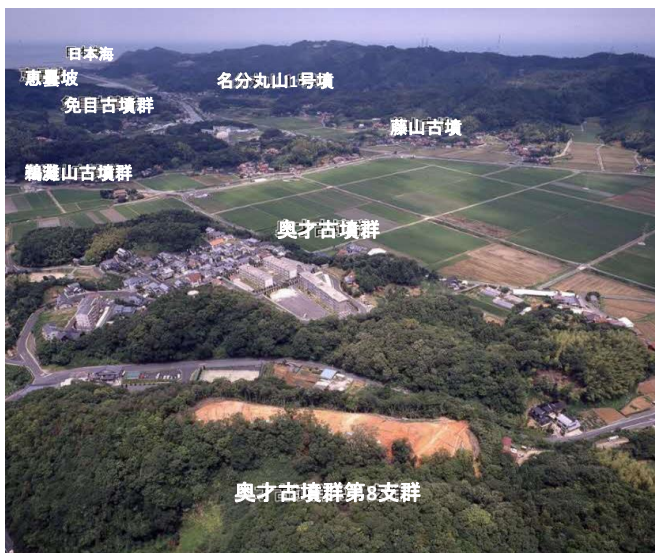
2025年8月発行

■ 鹿島町の古墳時代前期(3世紀中ごろから4世紀末)

今年5月から7月にかけて、島根県古代文化センターによって堀部1号墳の発掘調査が行われました。堀部1号墳は鹿島多久の湯横の丘陵の高所にあります。昨年の発掘調査で、全長70mの島根半島最大の前方後円墳であること、後円部に埋葬施設があることが確認されました。そして今年の調査で埋葬施設として竪穴式石室が用いられていることが確認されました。残念ながら土器などの出土品がなく詳細な時期は不明ですが、墳形や埴輪を樹立しないことなどから古墳時代前期に築かれたものと考えられます。

鹿島町は弥生時代には県下でも早くに稲作が伝わった地域であり、以後、古墳時代に至るまで、海上交通を活かして朝鮮半島・九州・畿内など多くの地域と交流してきたようすがみられます。町内にはおびただしい数の古墳があり、特に古墳時代前期の古墳群がいくつも存在することが特徴です。

講武平野の南側の丘陵上に築かれた奥才古墳群は、前期を中心とした総数70基近くの中小の円墳・方墳で構成され、この時期の群集は県下でも類を見ない規模です。住宅地や道路の造成のため、半数以上が発掘調査されています。墳丘の規模はさほど大きくないものの、鉄製の大刀・剣や青銅鏡など優秀な副葬品は大古墳に匹敵します。また、長大な木棺の内部に小礫を敷き詰める墓の作り方は日本海沿岸に点的にみられ、この古墳群の被葬者は、日本海交易に活躍した海人集団ではないかと考えられています。



奥才古墳群上空から日本海を望む



佐太前遺跡から講武平野を望む

同じく前期の古墳と考えられてきたのが名分丸山古墳群、鵜灘山古墳群、堀部1号墳で、講武平野を囲むように築かれています。全長40mの名分丸山1号墳は前方後方墳で、講武平野と恵曇(日本海)との結節点に位置します。堀部1号墳は作られたときには付近の拠点集落である佐太前遺跡からきれいな前方後円形のシルエットを見せていたと思われます。

島根県古代文化センターでは、島根県域の前期古墳と古墳時代の社会の解明を目的に令和元年度から鹿島町をフィールドに調査研究を進めています。

鵜灘山古墳群の測量調査と分布調査の後、令和4年度には、前方部の形から県下最古級と推定されていた名分丸山1号墳の発掘調査を行っています。後方部で木棺とみられる2基の埋葬施設が発見され、その直上から見つかった土器から、この古墳の築造は3世紀末から4世紀前半と分かりました。

今後さらに鹿島町の古墳時代が明らかになることを願っています。



堀部1号墳発掘調査の見学会